

中国少年指導感想

体育学部 武道学科 本間大地

私は3月21日から28日の8日間、中国（南京・青島）に柔道指導をしに行きました。最初は初めての柔道指導だったので戸惑いましたが中国の方々が優しく迎えてくれました。

初めは南京に指導に行きました。言葉が伝わらなくて上手に指導が出来ない部分がありましたが、明るい子供たちばかりだったのでコミュニケーションが取りやすく壁がなく接する事が出来ました。21日から24日の朝まで南京に滞在しました。

南京では、まず中国の強化選手と練習をさせてもらいました。中国の選手は日本人と違って体の柔らかさや力強きがあって普段出来ない相手と練習が出来て勉強になりました。練習のメニューも日本とは違く、短い時間で集中力の高く非情に質の高い練習が出来ました。子供たちの練習では、初心者の子供が多く基礎練習を主に行いました。練習の最後にはレクリエーションで子供と試合をしました。一つ一つの事に真剣に

耳を傾けてくれるので指導にも熱を持って出来ました。観光の一つで南京大虐殺のお寺などを行かしてもらいました。そこでは日本と中国の根強い関係や昔の日本の事がひしひしと伝わりました。



青島では24日の午後から柔道指導をしました。青島では南京の子供たちとは、少し違って経験者の子供たちもいて技の指導もしました。青島の小学校に招いていただき柔道体操と言う柔道の技を取り入れた体操を見せていただいて中国にとって柔道と言うものは学校の中の教育にも絡んでくるような大きな存在なんだと思

いました。そのほかにも多くの小学校を回らせてもらって、小学校に柔道場があり日本ではあり得ないような光景がありました。日本の小学校ではまず柔道場がある事などないと思います。青島の街並みとしては南京よりも都会で綺麗な景色などを見る事が出来ました。

私は今回の中国の柔道指導を通して学んだ事は、中国の柔道は日本の柔道よりも進んでいる所があると思いました。青年の練習では短期集中で、練習でのストレスがたまる事がなく、より良い練習が出来ます。そして柔道に対する気持ちが下からの目線で、すべて吸収しようとする気持ちが感じられました。子供たちの指導ではまず指導者が子供たちに手を出す事はなく笑顔で練習してるのが印象的でした。日本では指導での暴力問題や柔道に対する資質を問われています。中国では小学校の指導から柔道を取り入れていて本当にすごいと思いました。日本のように上から指導するのではなく同じ目線で指導しているので柔道が続ける子供たちは、多いと思います。日本の柔道が中国の柔道に学ぶ事は多いと思います。そして中国の柔道システムも面白く、強化選手になれば柔道が仕事と言う考え方でハングリー精神を養えると思いました。柔道以外にも日本で騒がれている黄砂やPM2.5などは中国では全く騒がれておらず、より良く生活を送る事が出来ました。柔道や通訳などでサポートしていただいた人達も優しく接してもらえて、日本が中国に対して誤解している所も多く感じられました。

最後にこの柔道指導をサポートしていただいた人達に心より感謝をしています。

